

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

教育を通じて国際理解や国際協力を推進すること、人びとの交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進を行うユネスコの基本理念にのっとり、学年やクラブ活動、日本語教室（チャオリヤン教室）等で取組みをおこなっている。

A) 全校での取組み

- ・ 阪神淡路大震災、東日本大震災の被害を学び、自然災害は必ず起こるものであるという意識を高める必要性を考えた避難訓練を行った。
 - 自助・互助で数日間生き続けること
 - 公助は数日後になること
 - どんな災害でどんな被害がおこるのか、日ごろから想定しておくこと
- ・ 園芸委員会での『はるかのひまわり』の取組み
 - 全体朝会での絵本『はるかのひまわり』の読み聞かせ
 - 『はるかのひまわり』の種の植え付け～種の回収～全校児童への配布
 - 中学校区幼・小・中への『はるかのひまわり』の種の寄付
- ・ 核兵器の恐ろしさを語り継ぐ取組み
 - 6年生が、原爆や戦争について調べたことを、全クラスでプレゼン発表
 - 6年生による千羽鶴作成の意義とお願い、クラスへの入り込み指導
 - 全校集会で、6年生が原爆の恐ろしさを絵本の読み聞かせ
 - 平和を願う歌の発表
 - 6年生が考え、まとめた「平和の誓い」を発表
 - ヒロシマ修学旅行後、6年生が原爆・戦争について学んできたことを報告集会で全校児童に発表
- ・ 世界の貧しい子どもたちの現実を学ぶ
 - チョコレート为例に、カカオ豆を収穫するために児童労働が強いられていること
 - 児童労働をなくすために日本や世界で行っている活動紹介
 - 世界の貧しい子どもたちが、学校に通うことや将来を夢見ていること
 - 厳しい現実を知り、自分にできることは何かを考え、実行すること
- ・ アジアの貧しい国の子どもたちに絵本を送る取組み
 - 松原高等学校の「世界の課題について考える選択授業」を選んでいる生徒が出前授業に来てくれ、ストリートチルドレン・人身売買・子ども兵・児童労働・地雷をテーマに5年生がワークショップ型聞き取りを行った。その後、5年生は、「日本の紹介・学校の紹介」絵画を描いた。また、アジアの貧しい国の子どもたちに絵本を送ろうとの呼びかけを受け、絵本集めに取り組み、全校児童から多数の絵本を集めることができた。
- ・ クラブ活動での伝統文化の学習
 - 太鼓クラブで 前期、和太鼓の練習と舞台発表
 - 後期、チャング・プク等のサムルノリ練習と舞台発表
- ・ 給食の残量を減らす取組み
 - 食べ物を大切に取る取組みとして、給食完食をめざそうと呼びかけ
 - 完食するクラスと残量の多いクラスの合同給食
 - 中学生との交流給食

・校区連携、地域連携の取組み

地域人材に協力を得て、ふるさとの歴史や地域の人びとの思いを学習
校区連携の一環として児童会・生徒会交流の実施（自治の学習）
子どもの人権を守るための「いじめ撲滅」にむけての小中連携

B) 日本語教室(チャオリヤン教室)と仲間たちの取組み

・中国にルーツのある11人の子どもたちとつながる仲間たちと発表

大阪府外国人教育研究協議会の南河内大会オープニングセレモニーに
おいて、龍の舞と和太鼓をコラボさせて発表した。中国にルーツのある
児童と仲間総勢20人以上が参加し、大きな感動をよんだ。

松原第七中学校区国際文化フェスタにおいて、龍の舞と和太鼓のコラ
ボ、手巾舞を40人以上の仲間とともに発表した。

・中国にルーツのある子どもたちが主体的に活動する取組み

毎月2回、昼休みに「チャオリヤン教室の仲間と遊ぼうデー」を行い、
中国にルーツのある児童が企画・運営し、全校児童のほとんどが参加
する大遊び大会を行っている。

運動会のアナウンス放送を、日本語・中国語・英語の3カ国語で行っ
た。国際色豊かで、保護者からの評価も高かった。

中国の絵本の朗読劇を、中国にルーツのある子どもたちと管理職・教
員と一緒に全校朝会で発表する。

・中国にルーツのある親子と他の親子をつなぐ取組み

松原第七中学校区国際文化フェスタで販売する餃子づくりを、中国に
ルーツのある親子に加え、20組40人以上の日本の親子が参加して、作
り方を教えてもらいながら、親子ともども楽しく餃子を作って食べた。

・松原市国際交流キャンプへの参加

松原市内の小学5年～中学3年までの外国にルーツのある子どもたち
とその仲間を対象に国際交流キャンプが実施されており、本校児童も
実行委員になったりして積極的に参加している。

先輩からの聞き取りの講師として、本校卒業生も多く参加している。

「私をキャンプに行く仲間を選んでくれてありがとう。外国にルーツ
があることで、〇ちゃんがこんなに苦労していることを知って、これ
からもずっと友だちでいようと思った。」と感想を書く仲間もいた。

C) 各学年での取組み

・6年間を通して、障がい理解学習として、支援学級との交流会を行っている。

・1年生活科で、昔遊びを学習する際、中国の遊びとして「中国ごま」を取り上
げ、全員が一度は体験し、休み時間等で遊べるように取り組んだ。

・2年生活科で、「大きくなったわたしたち」学習の中で、中国出身の保護者か
ら、日本での子育て、中国の生活について聞き取りを行った。

・3年総合的な学習の時間で、「ちがいがあることがあたりまえ」「ちがいは個性」
「ちがいがあから豊かな社会ができる」ということを、『みんな友だち』を
キーワードに学び続けた。多くの人びとと出会い、どんな方とも『まず友だ
ちになる！』から始めることが大切であることを実感した。

①障がいのある人びとと友だちになろう

根木慎志さん・地域の団体ドリーム・聴覚障がいのある市役所の方
視覚障がいのあるミュージシャン・車イスのヨガインストラクター

- ②障がいのある人びととともに生きる人びとと友だちになろう
サラ=オレインさん・手話通訳の方・ガイドヘルパー
- ③外国にルーツがある人びとと友だちになろう。
A L T・サラ=オレインさんからの聞き取り
- ・1～4年で、年に1回～2回程度A L Tから英語の指導を受けるとともに、アメリカと日本の文化のちがいを学んでいる。
- ・5年で、「ちがいを豊かさに」をテーマに継続的に総合的な学習の時間や音楽の時間を中心に継続的に学習した。
 - ①松原高校生からの出前授業「世界の子どもたちのことを知ろう」(ストーリーチルドレン・人身売買・子ども兵・児童労働・地雷)でワークショップ型聞き取りを行った。
 - ②中国にルーツのある先輩からの聞き取り part1・part2
 - ③七中校区国際文化フェスタでの中国語と手話による合唱発表
 - ④アジアの貧しい国への絵本を送る活動の発信
 - ⑤アジアの学校に「日本の紹介・学校の紹介」絵画を送る松原高校の活動に協力
- ・6年で、ヒロシマ修学旅行を行い、戦争・核兵器などについて学び、平和と命の大切さを大切さ、戦争がいかに人間らしさを奪うかを、写真・資料・調べ学習や聞き取り・平和を願う歌等の学習を実施している。修学旅行当日は、広島平和公園内で被爆者からの聞き取り、資料館見学、班ごとの碑めぐりなどを行い、戦争は最大の人権侵害であることを心に刻んでいた。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 (地域教育協議会の活動・イベントに参加)